



県内経済情勢 (令和7年7月判断)

令和7年7月29日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

照会先

千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)

ホームページ <https://lfb.mof.go.jp/kantou/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」

項 目	前回（7 年 4 月判断）	今回（7 年 7 月判断）	前回 比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）7 年 7 月判断は、前回 7 年 4 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（7 年 4 月判断）	今回（7 年 7 月判断）	前回 比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
設備投資	6 年度は増加見込みとなっている	7 年度は減少見込みとなっている	
企業収益	6 年度は増益見込みとなっている	7 年度は減益見込みとなっている	
企業の 景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

物価上昇の影響がみられるなか、百貨店販売額は前年を下回っているものの、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額及びドラッグストア販売額などは前年を上回っている。乗用車の新車登録届出台数は前年を上回っている。娯楽などは緩やかに回復しつつある。このように個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価高が続くなか、食料品の売上げは伸びているものの、衣料品や化粧品はある程度我慢できるものであるためか不調が続いている。自分へのご褒美として、衣料品等に代わりやや高級な菓子や精肉等が選ばれている印象もある。(百貨店・スーパー)
- 様々な商品の販売価格が上昇するなか、お客様一人当たり買上点数は減少しているものの、調味料等普段使いする商品も含め断続的に実施しているセールやキャンペーンが好評なこともあり、売上げは伸びている。(百貨店・スーパー)
- パンや和洋菓子等のオリジナル商品に加え店内調理の焼きたてパンや米飯類といった独自性の高い商品が好調なほか、商品価格の値上げも行われていることから、売上げは前年を上回っている。(コンビニエンスストア)
- 梅雨入りしても気温の高い日が続いていること等から汗拭きシートやUVケア商品といった暑さ対策グッズが好調。コメの価格高騰等により食料品も伸びており、売上げは全体として前年を上回って推移している。(ドラッグストア)
- 全体的にはメーカーの生産・出荷の遅れ等はない。一部の車種については新型車投入効果もあって人気が集申し、なお納期が長期化しているが、販売台数は前年を上回って推移している。(自動車販売)
- 原材料価格や人件費の上昇により利益は圧迫されているものの、ネット媒体も含めた広告展開の効果があらわれているほか、グッズ類の販売が好調なこともあり、客数・売上げともに前年を上回っている。(娯楽)
- 主に食事の原材料価格上昇分を転嫁するため宿泊料金を値上げしたものの、足下でも休日近辺はほぼ満室状態、繁忙期を迎える夏の予約状況も好調である。(宿泊)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

生産を業種別にみると、石油・石炭などが増加する一方、食料品や生産用機械などが減少しており、全体としては、一進一退の状況にある。

- 不安定な国際情勢の下、原油価格の動きが不安定となっており、収益への影響が懸念されるものの、需要動向は石油化学原料向けや燃料向けなどいずれも安定的に推移しており、業界全体でみても生産量は増えていると思われる。(石油・石炭)
- 人件費等各種コスト上昇分を転嫁するため値上げを行ったところ、全国的にみれば受け入れられていると感じるが一部地域においては苦戦。買上点数減少の影響により、生産量は前年よりやや減少している。(食料品)
- 人員不足や資材高騰により国内の建築関連が低調に推移していることや、製品価格の下落等を背景に、顧客企業において当社の生産用機械を用いた設備投資意欲が減少しており、生産は落ち込んでいる。(生産用機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

新規求人数は減少しているものの、有効求人倍率は横ばいとなっている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- とにかく募集をかけても人が集まらない。賃上げの動きが広がっていることから、より給与が高い大企業等に人材が流れてしまっている。離職率は低下しているが入ってくる人がそもそも少ないため人手不足が改善されない。(小売業)
- 建設現場においては依然として人手不足が続いており、工期が延びる要因となっている。(建設業)
- 各部署において人手不足感が強く、人員の増加に加え、AIによる自動化に向けた業務内容の変革等を行っている。(製造業)

■ 設備投資 「7年度は減少見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年4～6月期

- 製造業では前年比増減率 2.0%の減少見込み、非製造業では同 36.4%の減少見込みとなっており、全規模・全産業では同 33.6%の減少見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」7年4～6月期

- 製造業では前年比増減率 22.2%の減益見込み、非製造業では同 9.0%の減益見込みとなっており、全規模では同 11.0%の減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年4～6月期

- 先行きについては、7年10～12月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲住宅のいずれも前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事請負金額をみると、前年を上回っている。

県内経済情勢 (令和7年7月判断)

(資料)

目次	(頁)
1 . 個人消費	1
2 . 生産活動	2
3 . 雇用情勢	3
4 . 設備投資	4
5 . 企業収益	4
6 . 企業の景況感	4
7 . 住宅建設	5
8 . 公共事業	5

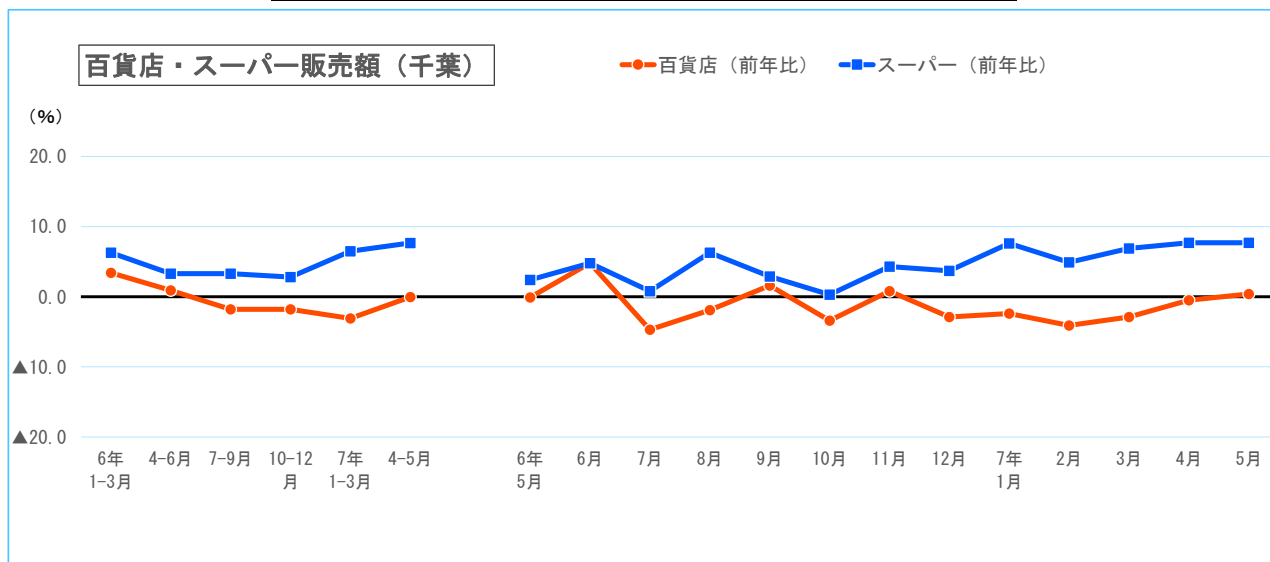
令和7年7月29日

財務省関東財務局

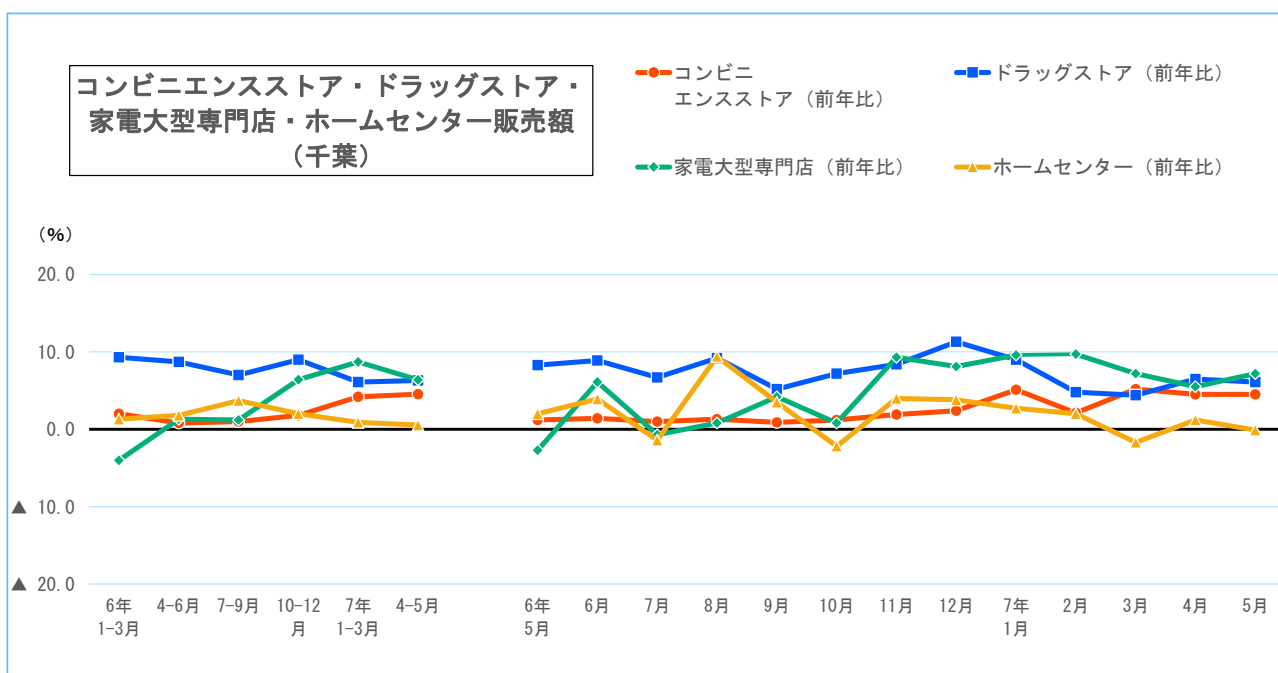
千葉財務事務所

1. 個人消費

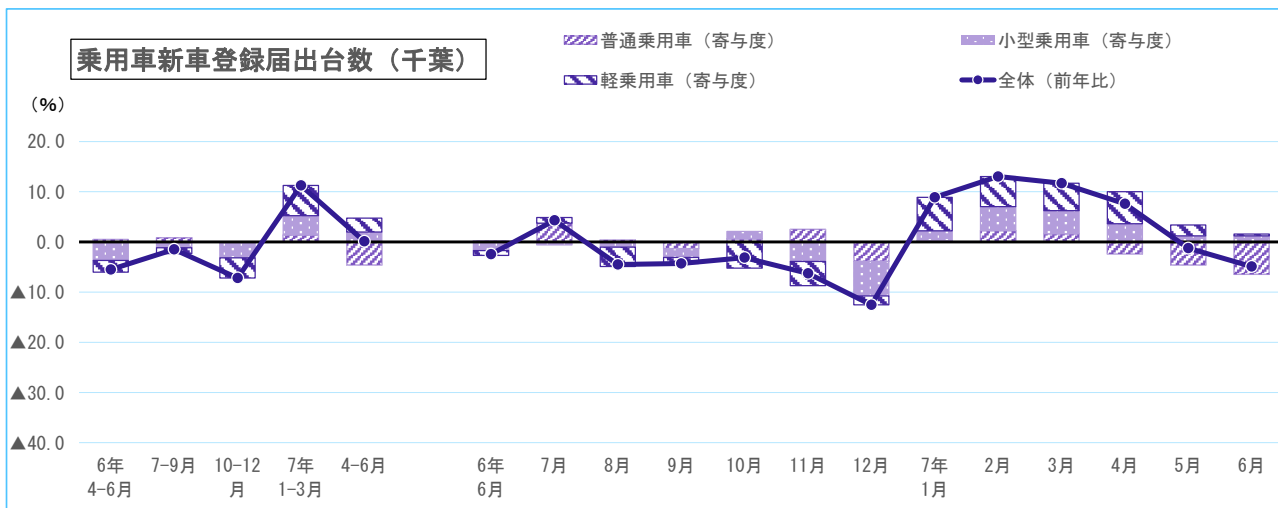
緩やかに回復しつつある



【経済産業省】



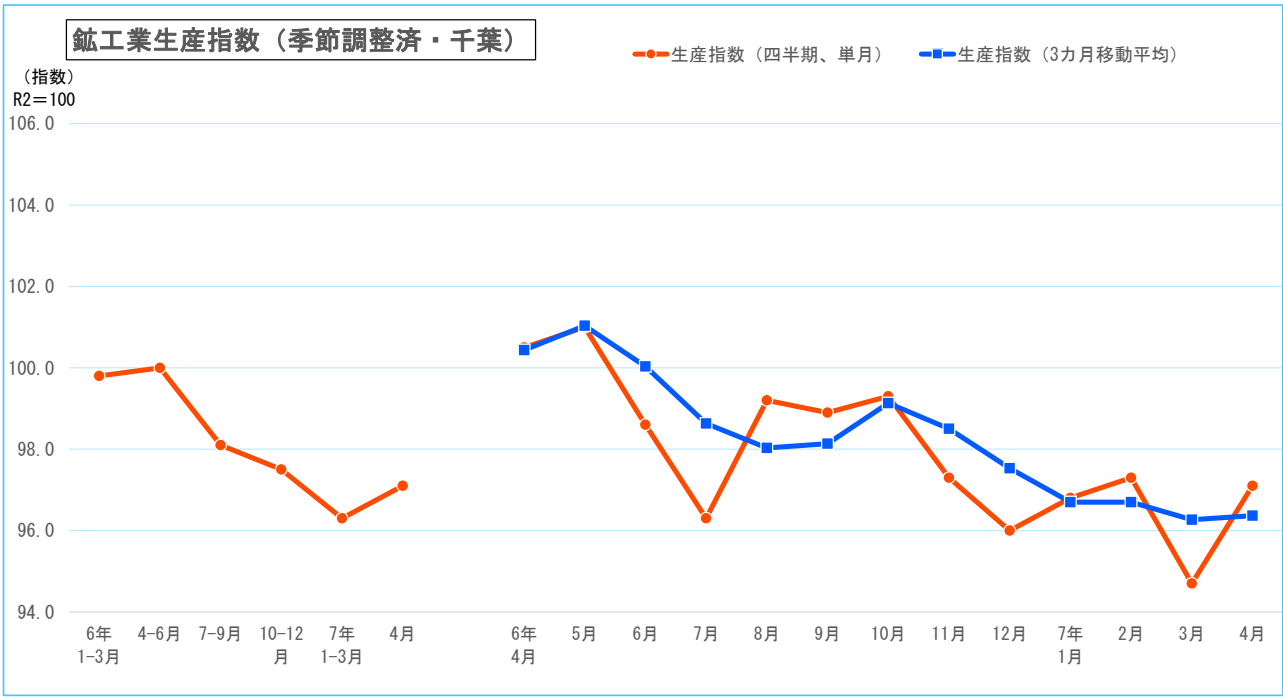
【経済産業省】



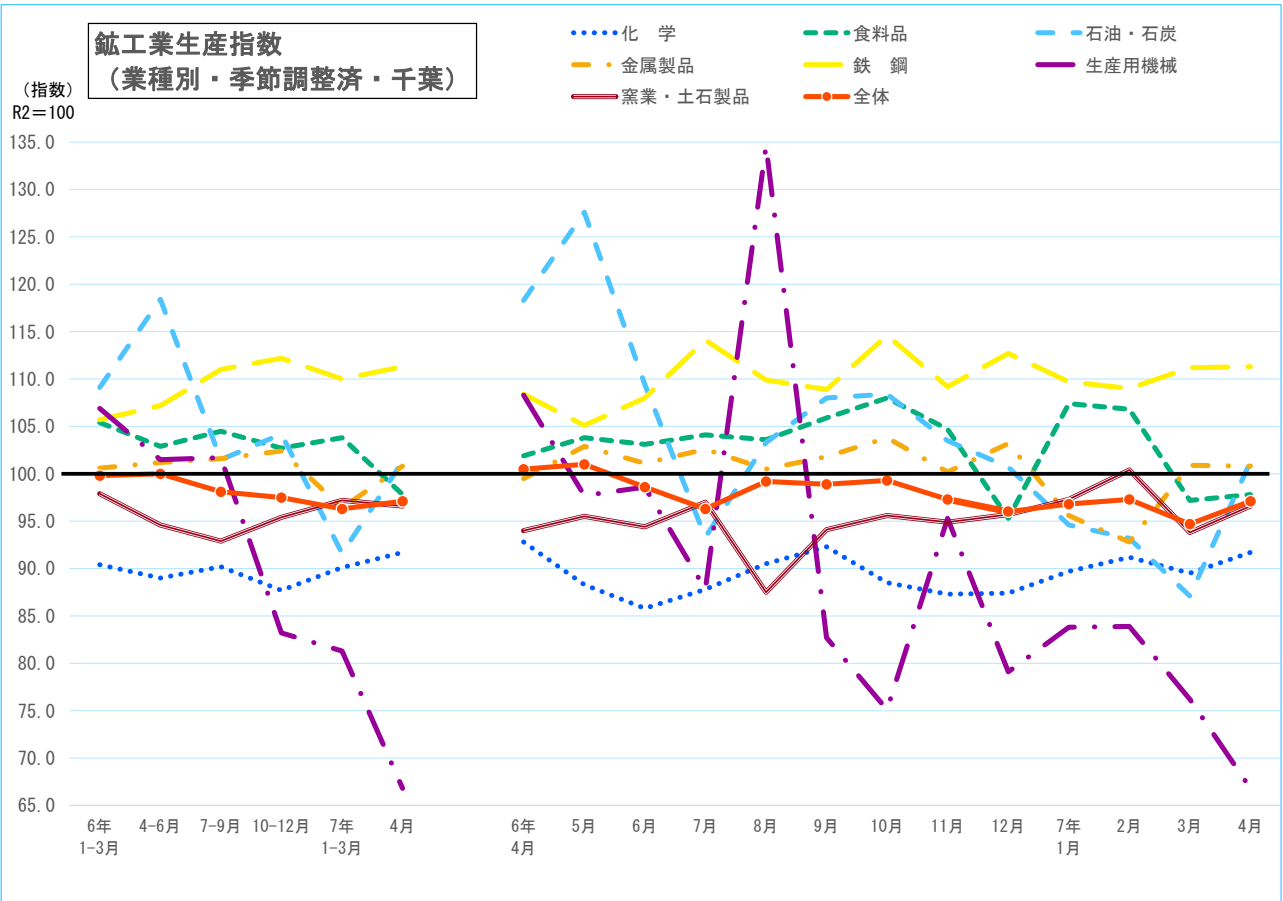
【日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会】

2. 生産活動

一進一退の状況にある



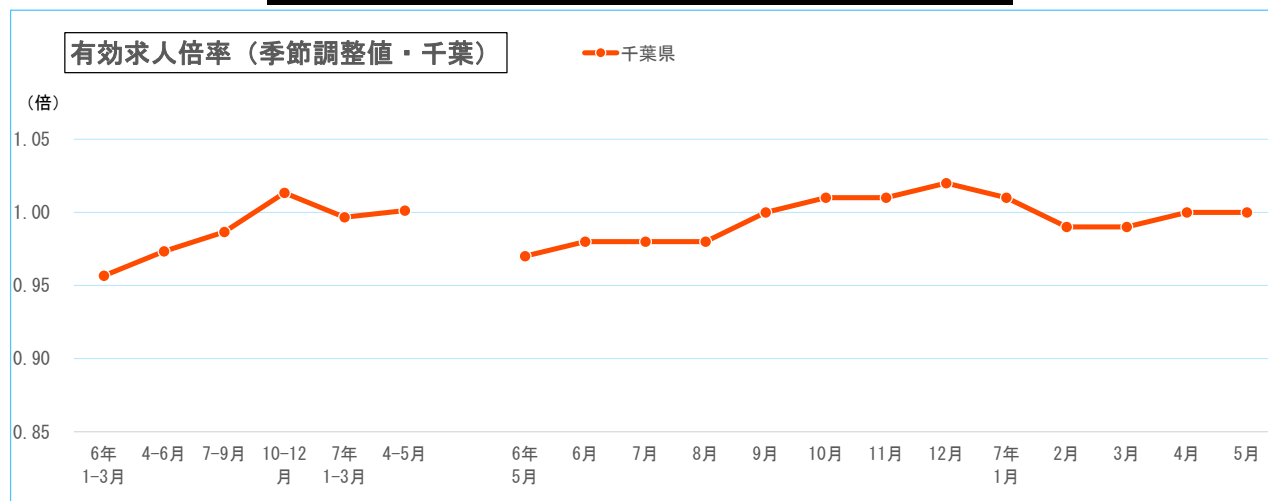
【千葉県】



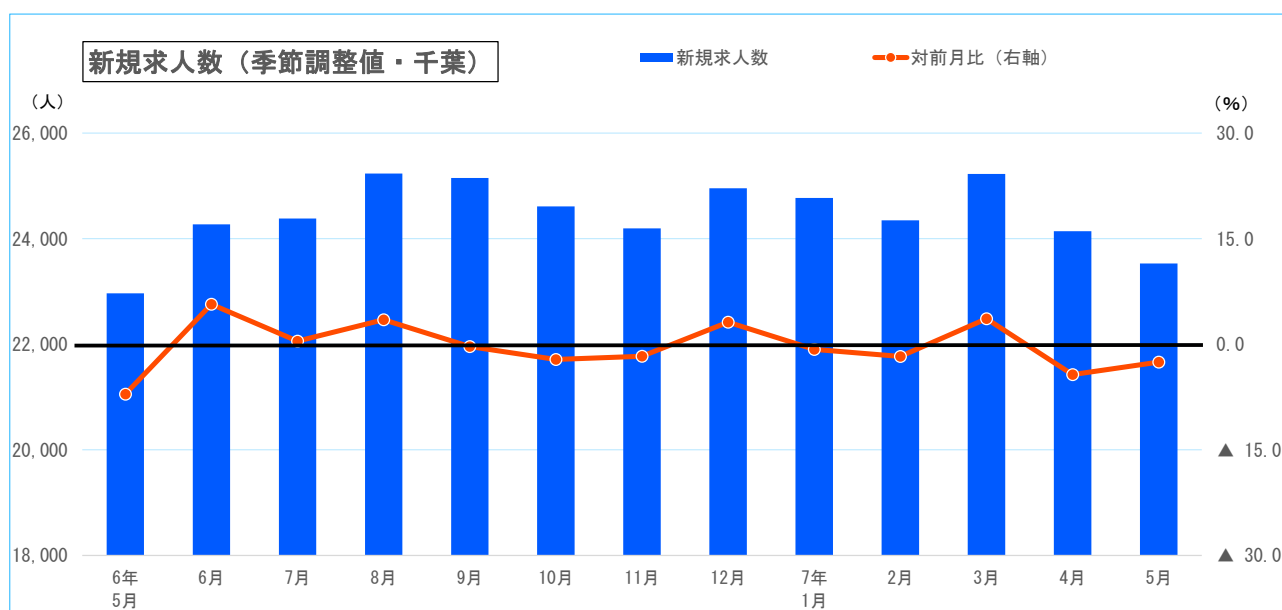
【千葉県】

3. 雇用情勢

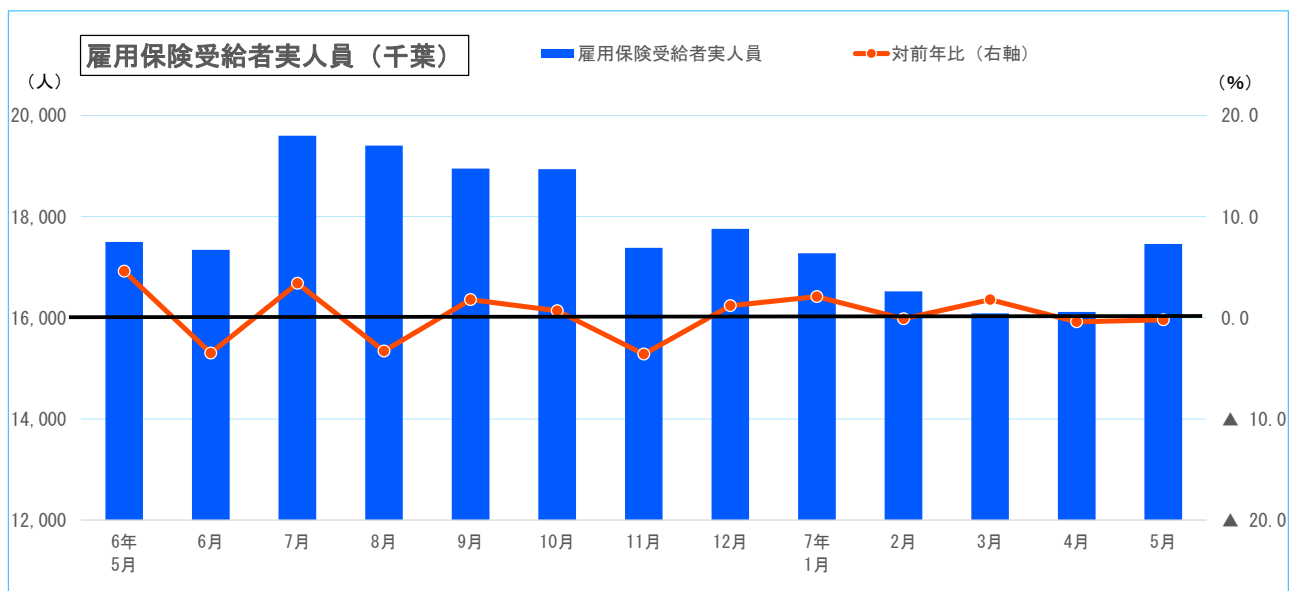
緩やかに持ち直しつつある



【千葉労働局】



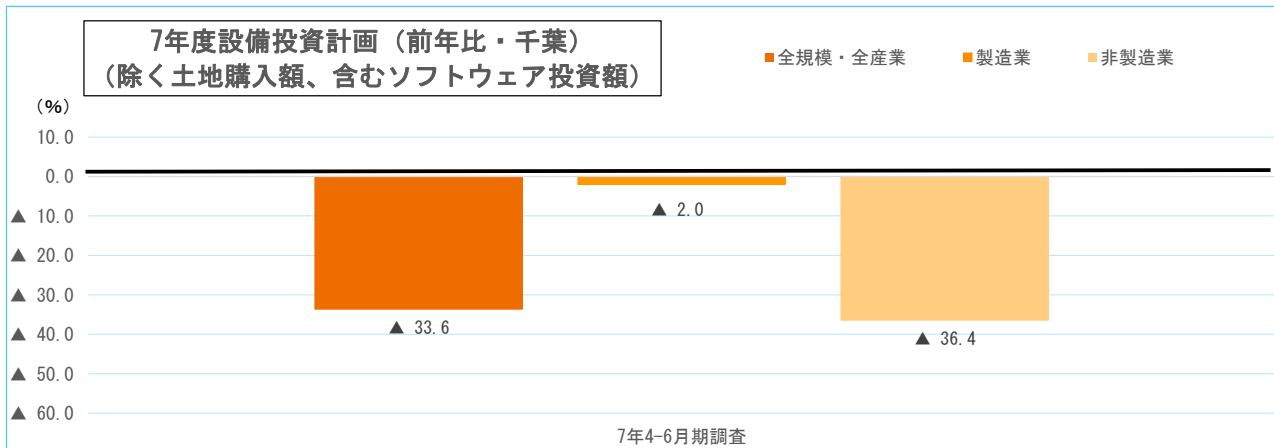
【千葉労働局】



【千葉労働局】

4. 設備投資

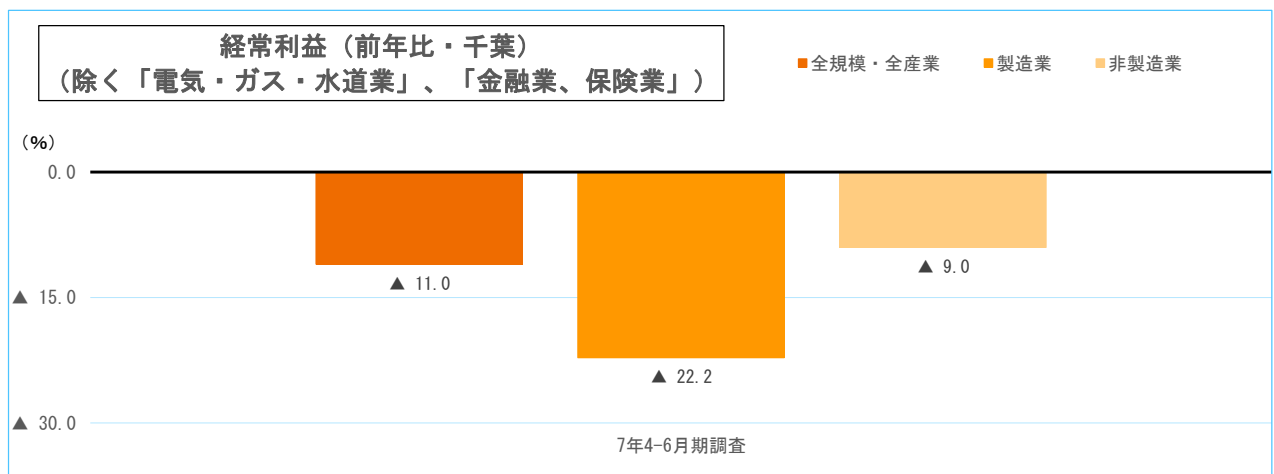
7年度は減少見込みとなっている



【千葉財務事務所（法人企業景気予測調査）】

5. 企業収益

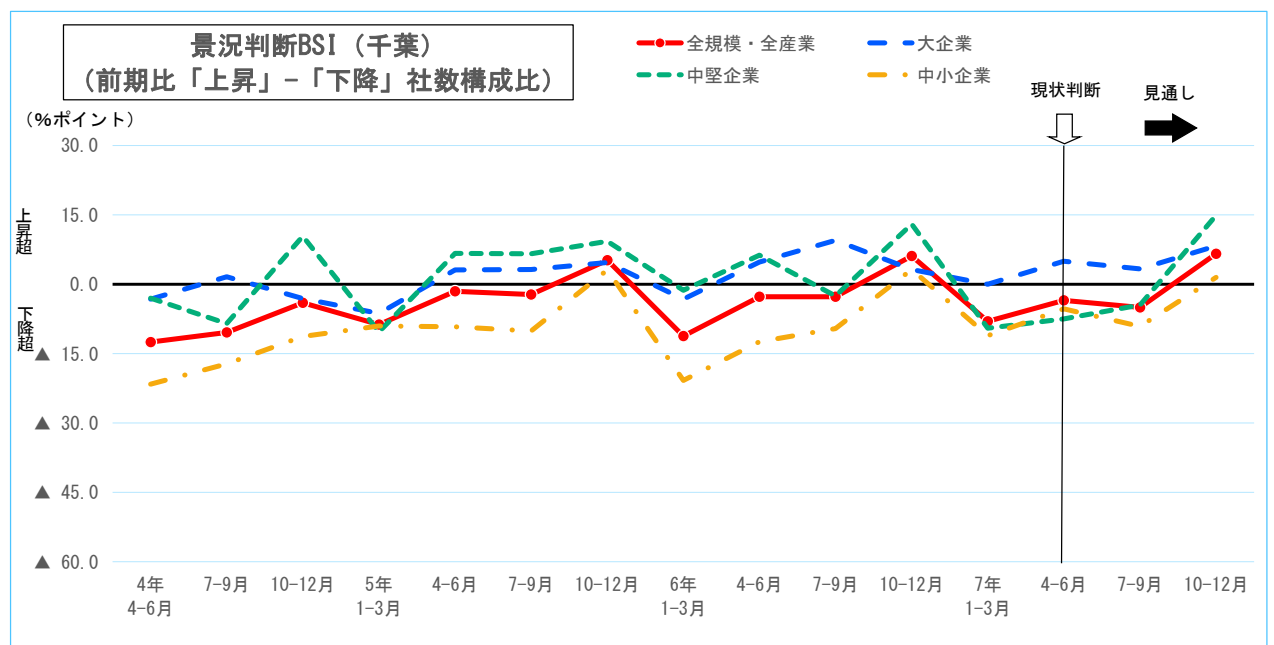
7年度は減益見込みとなっている



【千葉財務事務所（法人企業景気予測調査）】

6. 企業の景況感

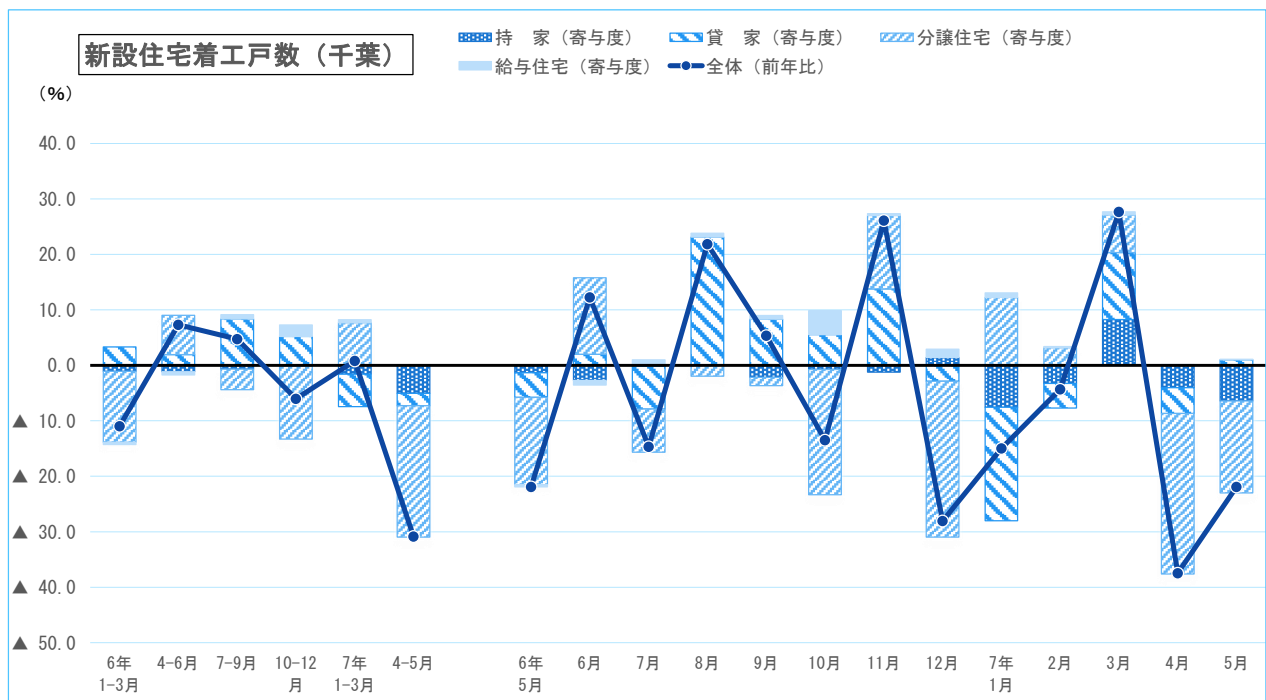
「下降」超となっている



【千葉財務事務所（法人企業景気予測調査）】

7. 住宅建設

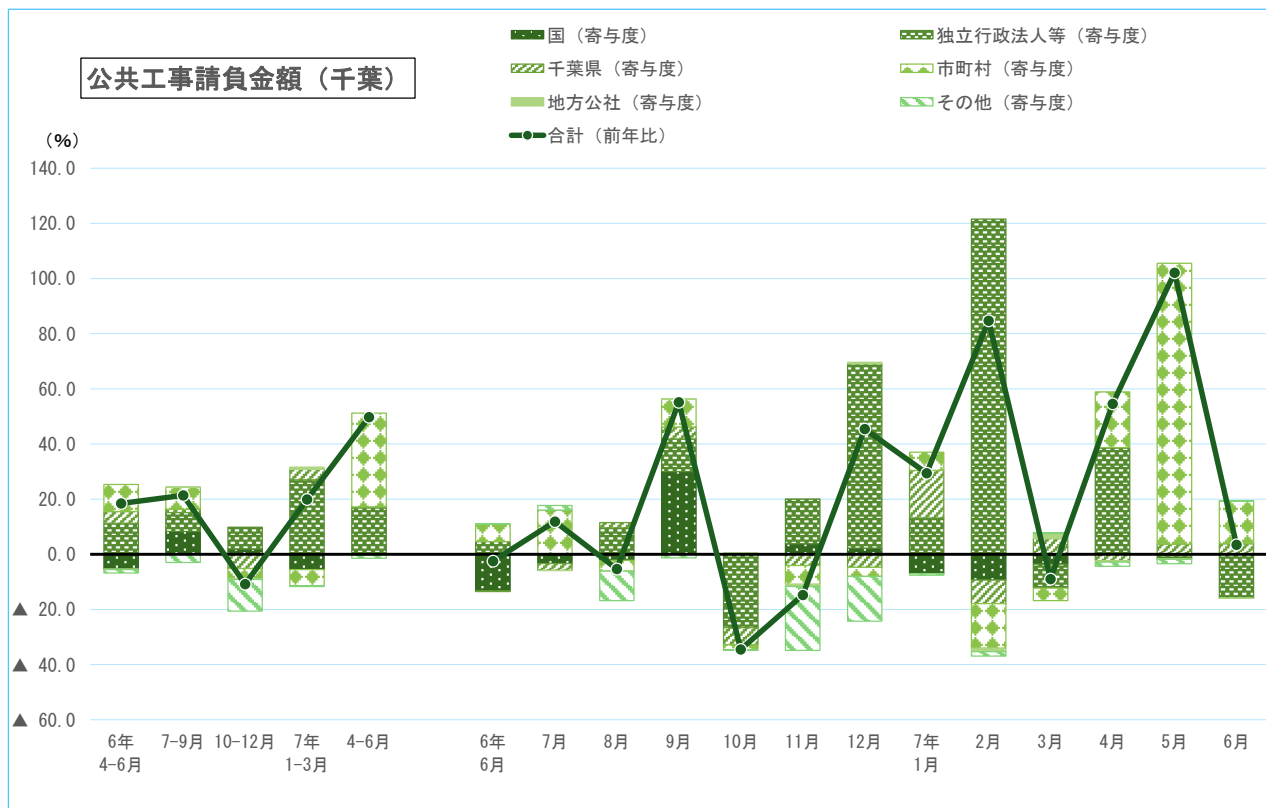
前年を下回っている



【国土交通省】

8. 公共事業

前年を上回っている



【東日本建設業保証株式会社他】